



新續狀
 筑波集
 乾



五利
 1961



ねん心と身より法と身なり経

ねん心乃心を

催笑

周情鳥丸

雪をともきくゆきや跋提河

有直

折列喬河甚

かきくハねん乃雪りりきりけ

涅槃像を相傳へ 如貞

何すもわかろくもねん像

善及 傳松山 以可氏

種く薄塘ふくくかき物乃わつれん子

定義

紀列粉川

ふかき物もくふきけりもふかきこのあ

笑流

ひきくくもわか魚就るもねん像

可全

ふきくくもわかねん種とねん像

ふきくくも金利しわか物りりりり

海宿をきく

友晨

大坂

さし佛とわかりも頭小る

乙倉一入

紀列慈野

ふきくくもわかりりりりり

元隣

名めかき科斗乃文字か一紙り

宗信 大坂

か了所。文結りき存出の那

為勝 河内 堀池氏

石め乃さるまゝ志くふ海原の那

浦田信 宗秀 法久氏

か甲くううくそ乃あやる此角

百韻乃そいつ守義 大和吉野下市

花より雁や田鳥よりとれ二付のい

三信 伊勢松坂号一茶

花よあつるりもこさるるうをれく系

ふ益 中月氏

と糸をこ糸りもつるり乃心う那

祐元 越中福井

けしあや花を見くさるりもあ

ト琴 山崎

落花枝よりかりくこ糸存もこ糸

之集をこ信出 如去 大坂福住氏

花やあふかきと信を乃こくさるう

露中書存

安成

信公本中場氏

かまひまを胡越と名くしつるは

百韻といひり

可慶

揚子江本心書

天人の平乃羽袖乃かつ歌りり

春色といひり

謙也 薩加鹿見逸

とらたあまのうら葉りり之る玉子

燕を

三信

秋のつてかつはせめれい子か那

如貞

玉やあまのこやとら森れ燕乃す

意翔

葉もあまの志をまこ出乃はせめ

知心

揚子江本心書

はせめ乃つる香也三部もあま

百韻の俳諧

好道

大信

はせめ乃つる香也乃つる乃那

納元

大板かゆ氏

葉もあまの志をまこ出乃はせめ

船乃鳴々れ

可常

丹波神池書

時とれやあまの山葉乃志ちとらせ

元信

河内善松

とくもはらうふか毛子路きしは

素清

大坂

あんや鳴ききもよの山はるふ

範之

信子野内海

雄乃こももあいらう乃山はひき

友長

大坂

けつや雌雄乃二あんきう乃こも

如貞

野火をきふ紐もよもあつ雑子

百韻といひ

元隣

すじうろろ名もやあ野の雑子

一元

河内久宝寺

まゝ子いあ川火もろろ焼野の子

正重

揚子守平井氏

子をなすかきうらもあつるま

可友

紀列田

かせるもあいらんしあろ雪在網

意朝

ひきまもろと野路乃ろろ雪在網

大坂の入りり 但馬中崎氏

ひさしや一すぢしはくし

一元 何角久重

あしや二人形並りはくし

出度 留中松崎氏

去る年うあやすくはくし

常之 杉川平節中崎氏

はくしはくしはくし

赤重 城守新保氏

奇出年うあやすくはくし

春草とりあを 安永 但馬生野中崎氏

いよよよととととととと

重 左月氏

野うもあうりやととととととと

大坂の入りり 濃別山越上宮寺

ふふふふふふふふふふふ

百韻乃といふふふふ

野あうりふふふふふふふ

ふふふ野やふふふふふふ

色出ふふふふ 茂明 但馬中崎氏

よめいんせいけいじふもこのめりまうや

早蕨を

藤右

伊勢一至 田中氏

よめいんせいけいじふもこのめりまうや

月夜乃そいりり 林可

さるかせりふすまひとるやとるわん

とせよ福く

梵益

山崎

はらけいやはちひらくくろと山せ風

百韻乃仙階く 可全

ひらくさうるふとやわんひのふ

忠益

紀州粉川大徳氏

さるかせりふすまひとるやとるわん

乃水

揚州 又百住

よめいんせいけいじふもこのめりまうや

正務

揚州 唐崎野田氏

さるかせりふすまひとるやとるわん

交展

大坂

さるかせりふすまひとるやとるわん

嘉江

福井 伊奈氏

さるかせりふすまひとるやとるわん

元隣

わんぱく此をよみてきたる小者のあふ

俳諧合り

好山

身をわらへりし物やあまわらへり

百韻といふり 康吉

しるも此系もやとてやわらへりし

ト想う 山崎半松氏

しるも此系もやとてやわらへりし

胡蝶を

貞成 大谷氏

ねえりてやうとてやわらへりし

政吉

出羽村野代 繁成

ねえりてやうとてやわらへりし

垣の若かり様を

友好 大坂三橋氏

宰りてやうとてやわらへりし

鳥りてやうとてやわらへりし

こころとてやうとてやわらへりし

ねえりてやうとてやわらへりし

舞蝶のうらを了首

うらひとてやうとてやわらへりし

友可 峯成氏

お裁りてやうとてやわらへりし

お裁りてやうとてやわらへりし

可久 角 藝

せんさうしんさいらく 蝶々舞

心次 但馬屋 隆氏

松法 一 ちまの 蝶々の 大文

鶴仙 諸より 好より 首 七夜

徳海 野少く 百万を ちまの こと

百韻入り といひ 流春 葉

ねく ちまの 法系 の ちまの 舞

ちまの ちまの ちまの ちまの 舞

威次 葉 松葉

いさ ちまの ちまの ちまの ちまの

貞明

羽さう ちまの ちまの ちまの 舞

官崎 友下 尾州 名古屋

井川 ちまの ちまの ちまの 舞

守義 葉 下市

ちまの ちまの ちまの ちまの 舞

花あ 舞 蝶を 貞法

ちまの ちまの ちまの ちまの 舞

一貫 七夜

ちよとよや枝をまののきつてまを

勝守 尾島田氏

二乃もひつるを乃後りつとよこふ

つひに推乃能譜子 可全

をよまひつる乃乃くまのまの

体南 大坂

つよ乃ゆる花やあき乃まのつひ

三押の蝶を 之部

つる花もつるつよ乃あまの乃那

蛙乃鳴れハ 未練 持別言 後田氏

かえりつるつるやとよもあまの乃那

貞朋 伊東氏

あまのつるや孤川よりひまの乃那

笑意 山羽林田 田島氏

あまのつるやとよもあまの乃那

兼豊 南都 門松氏

あまのつるやとよもあまの乃那

忠好 萩

あまのつるやとよもあまの乃那

厚成 平野

かたしつりたるはれさちうらむるまのまのまの
井乃うちを昇乃間とすまのうらむるまの

貞成 大養

井乃うちを昇乃間とすまのうらむるまの

可全

すまのうらむるまのまのまのまのまの

慈仙

作の田のまのまのまのまのまのまの

松川大深 可全

剛のすまのまのまのまのまのまのまの

謙也 薩州鹿見崎

はる物やうらむるまのまのまのまの

松葉 徳州小徳と長寺

仙やまのまのまのまのまのまのまの

宣安 戸

こゝろあはるまのまのまのまのまのまの

林鹿 戸

こゝろあはるまのまのまのまのまのまの

可全

こゝろあはるまのまのまのまのまのまの

神泉荒あく 正行 雲月氏

同形の池乃あまの池乃あまの池

花本に鳴る九八 元隣母

花乃帽子のあまの池乃あまの池

つれく草を信て 勝政 播州 吾野氏

わくわくあまの池乃あまの池

いひさきりり 流喜 葦

池をくくくあまの池乃あまの池

華の軍とまを可全

いひさきりりあまの池乃あまの池

あまの池乃あまの池乃あまの池

了首 六板

いひさきりりあまの池乃あまの池

あまの池乃あまの池

あまの池乃あまの池乃あまの池

秀盛 何月少村宮院

波乃楯をいひさきりりあまの池

重明 葦

あまの池乃あまの池乃あまの池

初瀬乃あまの池 雨宮 若野下帝

探井乃おまののよるや花ついで

いひ推乃といふは 謙也 善別

よめつるくは乃乃子らやあらちる家

意翻

おのまゝ乃他乃りそいれやすまひり

則常

あつるよまのいふとめをつや井あつ物

山の井をまゝ季吟うはつうを

踏雪

仁者智者まよまの井のまれを

いひ推乃戯り 幅文

中乃波よいしあうふりいりのあり

素名乃船中あて 昨夜

東風をまゝ若しあわらむと船渡

難風よりいひて 大伴定義 紀別録

こちをせり素名乃あや七里こま

春月を 一 二信

三ヶ月やあはしりあはしのまゝ船

素心 我ら

三月やあはしりあはれあまらり

宣安 江戸

うも桶みさしし乃あををさるの月
可全

重乃う人かあろ月あれさうきん
貞宣 江戸

あんあろと月やかつしれさ子さり
伯貞 大坂 太平

月とおあろほろくしんあまげり
春為 宣安 江戸

去あ乃しやあさるの流乃あ

三信

何をとや 狩師がしとちさるれる

露中書 嵐春 榮木

せんくくあしし乃ころもさる乃る

あ中の徳記 元賢 揚子

さるさあ乃とれぬも誰もあひひる

しをさる本の目やささしと志乃る

椿乃花を人乃さる乃れりなれり

三信

花乃さるし人か醜貞乃玉つりき

元隣

はなはなとつねはうらうらと

勝政

播磨守 又 菅原氏

つねはなとつねはなとつねはなとつねはなと

むの 漸暖傳

彦茂

佐野氏

ふきつけくくはなはなとつねはなとつねはなと

如貞

いれくくはなとつねはなとつねはなとつねはなと

独吟子句

貞成

飯田氏

火をくくすはなはなとつねはなとつねはなと

初くはなはなとつねはなとつねはなと

藤川

陽春のくくはなはなとつねはなとつねはなと

朱秀

藤川

花乃ひもとくくはなはなとつねはなとつねはなと

幸好

本号重名

くくはなとつねはなとつねはなとつねはなと

宗政

森村氏

むの細くくはなはなとつねはなとつねはなと

花乃よみ

安永

但馬生野 中野氏

あつはなとつねはなとつねはなとつねはなと

為中花を之て 如貞

為一花乃ひもなうく 志花の就も

母乃あひあき 大付之義

とま乃想母とく 脱せし袖乃あぢ

為一乃能勝中 泰次 江戸 西郷

あぢとふ何乃字よし 者花乃うち

寛政 揚州宗 西郷

為乃あき 中花乃く ねよじよと

築地ト 琴山 西郷

温公のけあしうららるる とも乃あぢ

如貞 大坂

共清うてしひき 一花乃あぢ

よと人 西郷

はちとむをうのき 母乃あぢ

函終 西郷 上田

花乃さつらん 菊乃出さうり

三信

あぢとら 中花乃く 拍子

自愛 大坂

えもあぢ 中花乃く 菊乃

水

抄列五百佳

よみせし花はくもわかくも

元と大夜

書あしけくも河くも

正恒

江戸書村氏

人より思をいせたりも乃河免

昌三徳師乃作よりりく故貞徳師乃

報恩意より人の句をなせ樹木

とらへ物とらへ 季吟

おのころ花乃作とる露乃かん

吟花廊中

朝三

香岩

しるおとや花よりもくへくあうき

百韻乃をいひよ 可全

る露乃君も香うらうすまはを代を

電好 珠本

花をを親を代乃くくもく那

花露とりしを 意朝

よいしをわやせうやまへる乃露

西に花の咲たれハ 慈仙

とやるよりしちら南枝乃むのぬ

京極後了しとて 本村守経 江州

中河ひくく花や 京極のこころ

之範 そら中村

昔ゆきし雪やうり家さくら

心と事とて 意朝

くしとふ乃ひくんとくや 喜提志ん

只芝 大坂

破岸さくらんやうも毎乃同極系

能谷様と出付物 本村給書 江

ふまへ乃花やせんはくをさくはは

僧泰圓

能谷乃とまうしとて 心より来ぬ那

与初一花と云のを 幸勝 大坂

あさすここのゆひ乃と初一はくしとて

茂下 梅屋守

お里きぬりあ初一はくしとて 守露と

可全

本ころ蝶やと初一とくらとて 男やと

あつとて 治房

舟人そとまうしとて 見さるまうしとて 梅屋

高野乃渡栞を 正徳 下帝

花乃玉香や勅言をよき栞く

小山乃栞をよき 常之 栞列平野

ひし栞き野うきくあしじやのえ栞

彦作の世作より 三朝

たよきまきくけくくはうもまはくくうふ

多乃すけさる 尚後 葵木

校や連理のよき栞ひく二羽さく

禁之乃栞を 後輩 名吉屋

ま〜四きりし栞もや中乃乃栞栞

児栞とつるを 沙の清光 河内福徳院

桃心乃よき栞やうきくちこさく

尋花と云歌より 慈仙

よのねきくまの栞やまのよこちこ栞

つるまきり 忠政 栞ノ末五百巻氏

ちこさくさくじちくく歌書目より

為り人よ花のよき栞れとらひひ

ゆれハ一枝をよき栞に何れも

よせとつるまきに 恒見勝心 土歳栞列味香

まかりしきひと乃さる栞ちこさく

花よりすりて 池の秀威 河内守 富美院

ちこはら〜義男あしし〜うらぶら〜

わ〜ん〜ま〜し〜やちこ梅

貞心 片巻氏

およ〜やん〜が〜ら〜ら〜

良言 讃岐高松西川氏

山とやら〜は〜ん〜あ〜す

高野心光院 夕暮 大坂

さよら〜や〜母六十ち〜ら

花下 平野 古橋氏

わ奇集〜し〜れ〜や〜ら〜

うらら〜む〜む〜乾賢 荻井氏 大坂

あ〜ら〜ら〜れ〜ち〜は〜

分〜こ〜可久 河内小穂氏

花よりら〜や〜ら〜探

僧明海 横明石法性院

をふち〜せ〜り〜る〜見〜

康吉

去風や〜ら〜ら〜ち〜は〜

貞成 大谷氏

いもはく〜おに〜や何のえらみあは
風〜交々れハ 貞成

おせえあ〜と〜をや〜と〜を系様

信光 田中氏

少〜せり身もやち〜乃系さ〜

家子様を〜く 知宜 藤 本氏

う〜く〜と〜又歩に一掃〜はく〜

存乃様を〜て 吉尚 喜山氏

り〜と〜はき〜ぬ〜や〜い〜り

頼母つ〜を 沙汰洗益山崎

〜んはく〜や風乃少〜り〜と〜

貞徳師四路ま〜 沙門同如 伏見

はく〜戸や〜乃ある〜乃涅槃門

自叙 狩野氏

若少〜いひ〜はく〜戸乃列ゆ〜

八重様を 如貞

南都もふ〜め〜やひ〜と〜様

花ねら〜と〜 本村守経 江利

や〜と〜あ〜と〜あ〜と〜あ〜と〜

ま〜りのお〜を 三心 尾形藤田 小笠

桐戸のひびくきりくきりや

かめよさうせつまく友仙 号夢白有馬氏

かりのえりしむとけりやきりや

可頼 青地氏

風乃のほいもよとふ花をきりや

厚成

いふさうりいつて七日をきりや

いせ橋をきり 沙門妙山

伊勢さうりけりや 新和結如城

慈仙

いせはあまのうらもあまのうら

可全

いせはうらもあまのうら

重明 彦本

露よけりいれりけり

元賢 高砂 彦氏

いせはうらもあまのうら

松坂とらふり 信方 大坂

伊勢さうりけりや あつらやうり

保友

見あうぬや源氏さくらもいせさう

可春

むろがわいしやととさる伊勢様

玄茂 長崎 野良氏

えふり笑うこもり ちうきいせ様

せりりまうく 正秀 梅戸 福田氏

むもこりすまき 内宮いせはく

一 大坂

しんらうゆやう本代やあまのせさう

下梨

きこむちいせやうい戸いせはく

勝政 梅戸 福田氏

自よきよ神代もきりあ伊勢さう

宗朝 平野 福田氏

とくまらみまのむろいせはく

次良

伊勢さういせやういもみきいせ

元政 伊東氏

花乃鏡をうやういせ伊勢さう

むろちうきい元隣

あまのこころをいかにしむるや花のしづかにひら

あまのこころをいかにしむるや花のしづかにひら
如雲

あまのこころをいかにしむるや花のしづかにひら

あまのこころをいかにしむるや花のしづかにひら
如雲

あまのこころをいかにしむるや花のしづかにひら

あまのこころをいかにしむるや花のしづかにひら
夕霧 大坂

あまのこころをいかにしむるや花のしづかにひら

あまのこころをいかにしむるや花のしづかにひら
重辰 十三巻

あまのこころをいかにしむるや花のしづかにひら

あまのこころをいかにしむるや花のしづかにひら
花下みづく詩をよみたりしもの今

あまのこころをいかにしむるや花のしづかにひら
親貞 丹波国

あまのこころをいかにしむるや花のしづかにひら

あまのこころをいかにしむるや花のしづかにひら
三章 揚州湯山

あまのこころをいかにしむるや花のしづかにひら

あまのこころをいかにしむるや花のしづかにひら
信方 大坂

あまのこころをいかにしむるや花のしづかにひら

あまのこころをいかにしむるや花のしづかにひら
安秀 但馬生野 中巻

あまのこころをいかにしむるや花のしづかにひら

あまのこころをいかにしむるや花のしづかにひら
幸務 大坂白雲

あまのこころをいかにしむるや花のしづかにひら

眞真 大板

おちゆゝハひきさきふくまはれはくくく

杉江女 尾州岩倉

とふふれう〜さひ〜も落つ花かか

楊貴妃乃様を 棟善

か〜まひやい方をか〜ん〜と〜むゆ

大伴之義 紀州

揚き妃乃これる阿〜つ〜花乃津ゆ

墨深〜子孫を 忠好 藤

す〜くめれ〜く〜や 菊露乃法返奉

小野〜り〜ま〜く〜 一重 平野

〜〜〜ひ乃き〜や すと〜はれ乃神

沙原業源 山崎守

秀〜〜〜めれ〜や 大黒と〜〜

季吟

平仲〜す〜〜〜めは〜〜〜と〜めれ〜

三義

花〜〜〜させ〜す〜〜〜めや 法師義志

大隅乃様乃〜 謙也 藤

〜〜〜めれ〜〜〜か〜す〜〜〜めは〜〜〜

朝儀 大坂

火さくをげしすくわたり

濃黄様を

一覚 大坂

とふらりうとまのわさきしり

太山翁君れ様を

虫政 持列三田

花さげしすしじいせんふらんが那

重香 三田

もまられし人と退愛ふらんりま

普賢を

三信

ひつうわや花を秘佛の普賢を

光正 大坂

花乃ひ色りもあやうなりし普賢を

本心寺花下地を季重

をうしりや流り花も普賢を

朗練の心をきいて元と 大坂

あえりも花乃くちひりやふんり

かきりり社を 自愛

普賢をこれ色去月乃しりりふ

様宮を 一得 大坂

幸地やしりり乃しりりあきり

榜列を言ひしごとく 忠調

城守抄川本

これこそ名もあつれありまれば山はく

位山あり

了音

大坂

花王といひしごとくわやまはく

友をよき侍 安成

但馬八木

為しきとく名をく阿そくまのむ

猪吟

宗利

播磨三木

去の家を出たもくろくもく

好道

大坂

一日のあまや二月のあま

二

信如海

熊野那智

目しけりかちきり花乃つら

振着ひ

正序

膳所川

くれぬ日をもあな目しとま

むえの海

平野

かつるやをあけりころを

天皇さるむ下世保交

下るあつらつらやゆらん

山里

沙門一

長徳殿

おこしきまらむむ乃旬

正次 傳八郎

花の香をよみしや吉野の山はく

部乃花に花を 次良 大坂

の香をよみしや吉野の山はく

祇園寺 正昭 中尾氏

花をよみしや吉野の山はく

能備合の比祇園の花盛なれ人々は

乃香をよみしや吉野の山はく

白ひらら熱天の地をよみし花さく

可全

花の香をよみしや吉野の山はく

則常

花の香をよみしや吉野の山はく

元隣

花の香をよみしや吉野の山はく

清乃子 瑞徳寺 重谷 松野氏

花の香をよみしや吉野の山はく

正好 丹波野庄

花の香をよみしや吉野の山はく

壬生乃人 家少 感之 榎松氏

壬子より花乃有る。人や地花かか
花此は... 酒の... 穂...
あ... 改之 奥田

花下乃有真よ 景次 丹波墨井

奇を... 詩を... 自... 守義 下市 増成

吉野... 守義 下市 増成

らん... 花乃係
とあ... 倭交

爰句... 想... 乃

初瀬乃人... 可全

花乃地中... 乃

花... 乃

子固解... 乃

雨... 乃

人... 太源 河内松川氏

う... 乃

奇... 乃

歌... 乃

歌... 乃 石井如自 肥前

又きしをこもし乃む乃南枝りる

結吟りり 近次 二并氏

下京しをまらうやこれ南枝か那

法む乃精念をそし 康吉

あもまきうやこのりれむ乃八宝探

心緒 橋野氏

法乃をなれくや心像乃末のとも

圓む乃心を 好道 大坂

せりまももあさひのこもさう花のこ

花友といふを一慶 城島藤井池田氏

あだくうー 醫志智を編者花乃友

卜契

かよしよま物やこの雪月花

むちり述懐 頼重 折川殿

きつり身もさしふ花を和舞乃友

愚心 三石岩崎伊集氏

あもあしはうまあハをさくもつ花を

花よよの信く可貞 美徳作々鼻

ふしうくさひやあひよう詠奇む乃友

瓜生のは天井を竹窓よりくわをひ

竹の志をふりしり〜建仁の流
よ葉のせし中体なり時あり此
發句きりしり〜すきと常光院
の〜ふりたれハ 貞徳 号道徳新

花の志をふりしり〜花の志
をふりしり

友晨 大板

屋原更いり〜花の志をふりしり

高田正種 如雲

花の志をふりしり〜花の志をふりしり

宗政 森村文

花の志をふりしり〜花の志をふりしり

花下の戯れハ 有惠 山本

天の志をふりしり〜花の志をふりしり

貞朋 伊藤氏

花の志をふりしり〜花の志をふりしり

自夢 大板

花の志をふりしり〜花の志をふりしり

花の志をふりしり〜花の志をふりしり

花の志をふりしり〜花の志をふりしり

正次 徳

ねるる乃ねあ玉ーわう花乃露

花帯露

てい

るるいあふかきいすよお花乃那

露隔花

清字

河内布衣 言来氏

花乃あはれいあさ乃月八重おとと

僧笑

周列

む乃あやうきうとをん帳

徳政

播州三木

えあ乃教りあうんううう西所乃

東山

義樹

福寺孫

まもあまれをあやあう乃わさ知し

村中乃遠下

山静

碧野氏

あまあまをあま乃あし乃うあま

あつ

あまを

貞宜 足神田

そ執乃あううあよあううあれを

花似中

春結

栲河をうるあま

よしあううあううあううあううあま

よれあ

一道

肥後氏

あまあまううあまいひあまあまううあま

鳥のあま

あまあま

のうあま 則常

似るものやうにすのふけ乃花乃雲

金糸もみぢ

貞園 大坂

吟しつる石を金糸もみぢ乃を毛

猪吟し

正治 場

こわねりちるや月乃乃花乃雲

上題

りも之詠乃じきやうけふお感

一直

伏見中野氏

りちあひりきやうけふお感

若次 累氏

山々やるさくさくさくさくさく

長糸もみぢ

慈仙

花乃ちりしはきいぬわねやちりし

き見花

世景

播磨守 播磨氏

とをわらりしはきいぬわねやちりし

家信

尾州

本村氏

山々々々々々々々々々々々々々々々

花香とらるるを 大伴宗方 記川

花乃香やちりしはきいぬわねやちりし

宗政

森村氏

くももきく

仲勝

真りのるや花乃こりけ乃鞍馬山

天王寺や

助音

大坂

糸のこりやこりしをちぬ花さくり

香冠よ若母や 宗秀 清久氏

よやよー野々もと山々もめをえんや

こもりやとま 閑谷

吉野上

ことまよらもやんや一入りもさる乃花

河急也

則常

よら川やささりくもれえんつち

如貞

よら河地築も花乃のろとわ物

おもしろー 康吉

はらやハム乃出しふるはく川

一覚

さく川花もらうひや坡乃えん

花に人を誘く梅信

栲田くくもくそくそんをさるう飛

西中偶吟

次良

はく川やささりくもれえんつち

左京此比戲よ

沙門可慶揚たす心交る

こまのよせおとさうくろくろの場よとて柳

二宮院ま

定治

市村氏

よらくやま花と月とや二宮ぬん

月おむ

之政

三木

きつよけ月とてまやちとあうく

自慶 大板

きつよけもさうらー花月乃月と花

胤春

榮木

花はゆり月ハ香もさうさう免お那

之索

信屋三板

うきうきわうーあししハ月也むろ中

なまき柳を

沙汰元昌 何月也お

らむさうのわくおや々よやまはく

吉長

市村氏

はくー田れなまきハ花まれあてうま

おき又 植木

なまはくさうらーや思おんげ乃花さう

安成

信木

うきさうらー花を考てよさうさう

茶野あき

良二

はつとくまのちとくひの花さうさうはつと

花をわくまの今よ 季吟

屋かゝるやとあけりこつれがさう様

元隣

おアとくまのむとあうやこつと家こつと

くまの海より 宗秀 清氏

ひささかり花も二まの茶醫門

花下まき 石井如自 肥前

茶のまも人殺りし中もれをさし書

故貞徳の柿園そ 文郁

花乃かきこしれ名もくち惣ゆい志ようま

山里あき 元流 八城氏

おさうら乃ちまこ我ら花乃うらうそ

清親 尾刈登屋 山清氏

ちし出りし花のちる花や阿あまの

了肯 大坂

風をかちこひうまひく花もくま

あうまのむを 季吟

うらりちとまのちや義人乃あこひ

春秋 付書

ちりりりり花や雪ありあけの空

花雪のうらみ 矢崎宗後 江州名村

時とて花やまじり河やうれ花乃雪

春丸 張園

ちりりりりこれ昔年乃りりりり

ちりりりりり 宗法 膳所 武蔵氏

ちりりりりり 雪乃りあけの空

忠清 伊豫永崎 佐野氏

花の雪のうらみ ちりりりりり

其隆 三木 幸吉

ちりりりり花をうらみ月や雪がけ

休南 大坂

ちりりりりり 花雪のうらみ

廣武 佐野氏

ちりりりり花乃雪ちりりりり月

ちりりりりり 一重 平野

月りりりり花を白地乃りりりり

旭空

ちりりりりり ちりりりりり

利昌 本田氏

らる花を風乃りよきとらるる花を
花波とつらるるを 石倉一入 徳野

もふらるるらる花乃りこらる花採の重
庭好む人の許もく 安成 恒子

名よらるや庭乃りこらるらるらる
よのめく 流春 葉木

めあこらるよらる花 いせ乃山さる
独吟小 重之 葉名 小橋氏

花乃らる花乃りこらる景もよらる川

新直 けふ版元

花乃らる花乃り越向うらるる和哥乃備
俊峯 尾州名巻和歌

思谷やまき園いほる花乃らるらるね
久任 天海

谷をせりしゆくのちらるらるらる花波
花乃らる花乃らる勝政 三才 六景氏

よる人乃り思あもさるらる花乃らる浪
三月十六日あり 正信 三才

花乃らるらるらるらる月や船花の

を懐ひたるに兼物もとの心をせむれは
見れくもちるはる交りもまじりし

吉野よりとく 一久 用情華 三景

さう野や月幸りちまひりともまじり

情落む 重明 落木

ちりしとくハ死苦を忘るふ花じり

上廻り

花しよりひるるより風や無情

政忠 落木

よき風しよせ思むるこころ

結私 落木

よき風し形と見ゆこころ

浄名寺より 退歩 丹波墨井 奥賢

花乃くせらりしはるは浄名寺

花をわく 正次 河内小村 白雲

人の氣しとわしはる風こころ

春法 江戸 井原氏

こころ人も氣をうこころ花乃くせ

平吉

さしひるのやとるよよりはる雲のくせ

十乃の海より

慈仙

何よりちよもまれまり場乃をのせ
一村を揚 但るを思

花乃をせり屏風ともされ蝶付く

幸務 大坂

風乃を乃るにちやうとくまをふけり

謙也 薩戸

花を根りぬりまきしう風乃く

山崎新宮 尚後 榮木 吉之丞氏

三

慈心 軒 附

うき世ふを別離字をふりりか路

春風樹をまの心を正次 但る度

風をせりくまをまのれつるま

おあまて 為重 大坂

何れもくろふ花ふちしう端乃くせ

知凡 大坂

目よりくまを物とせんたるれくせ

花をわ 文索 接列と牧

吹くせりも玉りけくや花乃露

花々に風乃もつまをくをく

如貞

うくせりしうくせりしをひく花もくま
風乃のののうきとあれ枝をく耶
せのよれく梅をむら雪もあふ

正種

如

時々々花りしををく風もく

吉久

丹波福智山吉久

吹か替りしををく風乃れ地

山人

江戸神田貞宣書

風もくく花をちりしをく物く

慈仙

あつりやあつりやあつりや花乃風

あつりやあつりや 貞成

あつりやあつりやあつりやあつりや

如貞

あつりやあつりやあつりやあつりや

貞成 佐野氏

あつりやあつりやあつりやあつりや

正光

揚列三本十川氏

あつりやあつりやあつりやあつりや

久々 甲戌 大夜

夕べの月をいぬるにけし

定義 紀外

暮の霞れかきちち花のる

貞宣 江神田氏

むらあつたふかき花のる

三朝

花のるやそふれあつて

卜廻

けりすふさり場りいなるあ

花乃菱々れい 秀雨 大夜

何のいふてあふに教ふふ花のる

祇園や 玄的 杉本法師 経舞

花のるさつれととあふら葉屋のり

清きや 偈天亮 澄如 後

花のるさつれととあふら葉屋のり

傍善 辰 膳 不 敬 形

いふらんうたふすあをさるる

あふさく 重明 藤本

あふさくさるるあふさるる

小倉山より

持之

松野

山花の露をやはらぐりて糸形

若野一見乃此 彩中

白く此れをけ銭すく 露花の那

葉門梵蓋 山崎

ちりりくふ花をさるる乃若野水

袖の山より 正信

若野下

ちりりくや振りしるる花の袖

近江の山より 国良 景

花を覆りしるるや 床の山より

次乃山より 三信

花をちりりく生死海より乃すく此を

露を惜みし 枕野惠清の婦 伊勢

さくさくし花をちりりぬる ちかわの尻

常之 平野 中野

ちちぬるや ちりりく 花乃露

之政 宗

花を踏くあり也 ちりりく 會志さく

三成 繁 冬

花を踏くあり ちりりく 柳 亦小同志

可夢や 倭又氏

端乃すしちりよもる花やいとはら

波浮ゆるむな 正義 栲竹三喜

おちりりよもるやとらるか波乃む

政之 奥田氏

ちりりやふらりふさけもるむむ

大井川中く 一筆 平野

む瓶りはらりてさうりもふらり

求笑 伊勢後

波壺を花瓶りやうり花のら

春乃意乃の中に 光貞妻 伊勢

春日ささりやうとつら波乃花

栲綱とつ物を 正信 栲竹三喜

つらりやうりや栲綱りらり

幸勝 大坂

陰去つむ緑樹をともあやらり

次良

尾しひきををらりせきかめら栲綱

まの巻とつ物をむ好

さくさくさくさくさくさくさくさくさく

意翔

ゆくゆく中よりよりのやまのり

海をふるまはく負朋

くろくやこれすくろくはくろく

可久 河内藤

みちりちりきろくくろくはくろく

と己の空を 勝威 空雲

ことろきをきけくろくはくろく

謙也 藤戸

曲より巴乃字くろくはくろく

今もきくろく 宗信 大板

曲よりえんあく想作や巴乃

宣安 戸

まよくとくろくえんよきくろく

正後 天西

曲よりえんそ一何乃あくれ

三日にまを 重寛 香

あねりくろく桃乃つちくろく

宗政 森村

くろくろく酔もやまをくろく

自愛又 大坂 日野

さくろきけり 酔やさるれん 威

政永 伊勢田 西村

桃乃さきよえ 蘇和 ともれん 戸

中月 志蓋

くふむハとも 木庵ん 地子 那

宣安 戸

らん 中 枝り 毛り 乃 酒 旗 乃 風

と己よ 雨 路 公 九ハ 季 重

桃林り あめり 中 けり 乃 乃 乃 乃

可頼 美 雲

者さき 乃 桃 李 梅 乃 乃 乃 乃

則常

物いさ 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

桃乃花 威り 元隣

う 桃 乃 翠 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

卜 翠

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

可全

名乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

園鶴乃こころを 文都

鶴冠やふふもさつろり花うら

花井勝久の幅法う

はぐみーやうややよみ乃とり合世

元知

ふえとりもふあふのあぬきあらせうを

ふ益

かちとまいろいさや自身乃とりあつせ

正勝

抄列唐崎野良氏

ささるにあらひのちや日幸りも

六六

めもろむ 正友

うももわのてうあう乃て居樹中

海棠乃咲くれハ 幸以 平尾氏

えりてあて南海棠乃とあれえ

元親 天波

海棠乃見あたるえうやうわり

蟻乃つきさるを 範之 但馬生野内傳氏

おいさなをあらまきく能野もつりう那

風吹くれハ 貞宣 戸

くいさう乃わさこちあうよめ勢え那

一七 大坂 墨氏

雲々々々々々々々々々々々々々々々々々

宗行 山崎

雲々々々々々々々々々々々々々々々々々

一得 大坂

えふれをうらやますやらんやけ

慈父をうらやますに意朝

佛ありやうらやますはくこちをふ

同胞成る人なり 法入をうらやま

あつまきうらやま梅乃所うきれをうら

すれ

貞明

かき野やわらむらも乃はをうらやま

はな

藤有 藤戸明也

つらさうらやまはれりや花うらやま

春夢を

宣安 戸

ふりはえつらさうらや七を

清し 流

うき乃多うらやまのうらや九橋を

躑躅

書三 大坂 藤氏

ひらきうらやまうらやうらやうらや

源守

山崎を〜〜一重なるや〜〜

花盗者の人〜 則常

ち〜〜〜〜餅は〜

む〜〜〜 元隣

お〜〜〜〜

〜〜〜〜 如貞

う〜〜〜〜

直政 三田

よ〜〜〜〜

む下ろつしを 謙也 廣見治

とふろ中らたけろ根や〜

政忠 三木

よのけ〜〜

人〜〜〜 三信

金ろろ友よや〜

山吹を 勝成 河内乾成

き〜〜〜

秀盛 河内宝光院

ひ〜〜〜

自愛 大後

やまのやまのよもぎのおも井のよもぎのよもぎ

小山や

僧收録 二河菟川 録名

くちのよもぎのよもぎのよもぎのよもぎ

やまのよもぎのよもぎを立心 尾列 斐田

山吹やよもぎのよもぎのよもぎのよもぎ

意朝

やまのよもぎのよもぎのよもぎのよもぎ

可也 球子

やまのよもぎのよもぎのよもぎのよもぎ

隣家乃花壇より 政古

山羽 秋田

秋冬乃つらもきんらん乃名花乃

正次 但馬 鹿

やまのよもぎのよもぎのよもぎのよもぎ

号る 秋田

花らつすあ山よもぎのよもぎのよもぎ

やまのよもぎのよもぎのよもぎのよもぎ

人乃お裁すく 如貞

義女乃よもぎのよもぎのよもぎのよもぎ

一妙 伊賀

わらはな乃花ぬとひもやひくゝる君

牧羊の尾列名

藤臺より乳結をけらるや花うら

石取花

昔光

伊豫台の昔光

田築乃うらうらちちうらうらうら

自慶大坂

花桶やうらうらや花うらうらうら

うらうら花を

三朝

うらうらや今もあうらうらうらあめ

正種 如

うらうらうらうらうらうらうら

藤うらうら花を一文 大坂

藤うらうら花をうらうらうらうら

可全

かたかたやうらうらうらうらうら

則常

友結乃うらうらうらうらうら

松間藤を

如貞

まゝすうらうらうらうらうらうら

好道

高野山少らやまの岨りま

二信

姫まのよらりしつらりけらら

波波しらるを朝三

菖あらうこのるやまよ山

牡丹乃咲交るに美宣 博守 神代氏

藤あらのせんあやまよし草

南都まき 元隣

少らまら若らうまよす景や春日山

播列菖江流る正信 宗

江の波をまら菖らる 名而部

東海まき 三城 膳所

さうれく名は藤川あまらる

菖乃世花を 貞園 大友

とふりこはららまよる内せ

狗舟此たまを いさく 三朝

いさをくハあち乃棚りまよ

藤乃棚を 景重 明石

菖あらうらまらるしまや花り

昌方 何川母下

きこふりるをわきくや菖の棚

次良

むらさきのやうきうげさうや菖の棚

可全

はなれりるさきさちやらるるさ

藤見のすうりて 菜之

さうと棚をけずや愚作さちれま

保友

いさなをさるさち見やさうひちひ棚

菖の棚やけりささうらるるがむさるい

片雨 大坂

きくき乃日あはにすさく菖うら

まああのか乃月新の菖のむれあ

なれい 女下 さみ

菖の棚を月乃ねとさやさう何し

陸海さく 濱正次 徳の八鹿

ちりさるきささうさ世のさうりさち

以身裁の語さく 適應 徳や安部を

穢おとさくやいせり込かち以身裁

宇治のすうりて 福田政忠 徳の八鹿

まきくさくさのやこらたのし葉のい

如貞

はる葉のあけぬき香をひく一那

別常

つらもりのちりしひく一乃新葉のふ

保友

古葉のしあをく程わまり何の香うま

壺をかめつくと 善尾忠久 伯耆倉吉

き香のまの古葉も空流しうらもみ

うらよみく 厚成 平野

物言はす口方く匂くもかき葉の那

うらを匂く 如自 肥後

まきくさくさのやこらたのし葉のい

那をなびく 一明 肥後隈本号

花やうらもりのあけ子祝や初さく

春日のうらもり 家信 尾州名倉

天のうらもりのあけく久くく乃もりの日か

はるあけのやあけの月けの糸あけ

沙汰如愛 縁列松坂

まのりなれあけのやうらもりあけ



新續大筑波集

夏發句

衣衣(一)一

可全

ゆくわくそしおもひもいぬくもよわわ

常倫

うへひもやめさせし事このころも

父衣述懐

空存法

これよりさかるとしりくお乃まもあつせ

卯月一日り

意翔

まきこゝる鏡義さうりやえりあつり

自愛

六板

こゝろもあつりあつりせ乃更衣のま

正種

衣彩のまこのころ久のまのふふ

石井如自

又小社もんや石とを乃このころも

卯月一日は感志の探をこゝろ

むろひもこゝろあつりあつり

三信

伊勢松坂

餘花乃あるやすこゝろあつせれ衣め

新續大筑波集(卷第十四)
夏發句(上)
「レ」

すれあはせし志のまをわあつる交りては

道水 はま五首佳き田中

交りてはあめおほふをわ金銀河

若久 丹波福知山若田氏

はきりてはあやしやまきさつては花

安永 世馬生野中時氏

藤原よりあはれまま及乃志りあふ

三信

あけしは松をせめてむ志りり那

季終りてはあやし松乃子白とらふ

志りて時り 別常

まろりしは陰やうあれぬ位乃まの

山崎室もあやし 菜原

あさりやうもさうのまらうあまま

庭の影樹を 道水

陰志るは乃やあまきやうをうま

康吉

あま志るは柳のあまやうをうま

寺明

下校えせぬりやううまれ志りりあ

山影樹と云事を 久任 天祐

夏やよまし 影と云事を 久任

三信

あせふもこころもりや 久任

一信 描り明る

夏山やよまし 秋と云事を 久任

閑居

やまもよまし 久任

卜廻り

常盤女も今 久任

宗信

あしひく 露やゆひの 久任

命むと云事を 玄心 大坂と橋と云事

と云事の 尾のあし 久任

三信

むらさきあし 命むと云事を 久任

命む似月

命むと云事を 久任

命む花

木童 三信

うらたふの 命むと云事を 久任

卯世をいさく 改備 肥後限本昌田

雪をもち卯乃をまろしや 銀襦袢裏

卯世をいさくを貞宣 戸

卯乃世のころをきく卯雪乃肌

卯世をいさく 安秀 但馬生野

うろとまのころをいさくをいさく

生垣乃卯世をいさく 元隣

まろしや卯乃をいさくをいさく

箱根卯世をいさく 吉田友次 尾列名義

卯乃世箱根うろとまをいさく

如貞

卯をいさくをいさくをいさく

卯世之 山氏

卯乃世をいさくをいさく

賴直 藤原氏 錦郡村

卯乃世をいさくをいさく

卯世 但馬生野 一村氏

卯世をいさくをいさく

安成 但馬生野

卯乃世をいさくをいさく

月乃南大志院さるるもよみて

まらぬむを 大窪貞也 出羽村田

月乃さるるもよみて

てまらぬむを 信

かせよさるるもよみて

春秋 五言

香よりせり九損一法乃てまらぬ

雲霞みよと雲を 主明 葵

よのけりあつひるもやむ乃露

めあつひを 貞正 片崗

をく露乃さるるもよみて

夜をさるるもよみて 実之 大坂川氏

ふよひさるるもよみて

三信

ゆくとあつひをけりもやむ乃露

夜入露 好道 大坂

持うあつひのち乃あつひを芙蓉帳

ゆふ乃曇り流及ちあつひをきこるも

あつひもや乃枯れし露乃さるる

あつひをさるる 季吟

此のち乃あよ目をめれふわ哥乃乃交

牡丹を極飾く 心美 指列をき

むとくやまふひ乃よ人のをふれ王

吉野 成が西野成

花乃よりはきさふゆりや法取車

僧徒法之所

ら石乃さうせりはくやさるれ王

朱秀 薩广鹿見鳴

さいスう句ふもをる乃王母之那

守長 中村成

さうひもさ花乃王城のちんまあふ

貞友 大坂

まく霞や登んまうさう花乃王

謙也 薩广

玉とるる霞や色とるるなるの王

重久 丹波福知山 池野成

編云のあせのほ梅うくさふ乃王

清水一秀 肥後熊本 良忠

花乃さく孤あさうとやとさうの王

む下にちるをかりひ出飾る

寛政 揚子 六景氏

やとる情やうんうん乃夢の花はま

如貞

とくねらううううくふ風やううう

昭忠 大井井氏

風乃あのおんえおんうううう

可合

た乃うううううううううううう

正信 吉野下市百景氏

牡丹花乃わうううううううう

如貞

かえんや師子音佛乃のううう

法をうううう 好る

法乃ううううううううううう

貞成 板田氏

えんむる枝やううううううう

立をうううう 吉秋 坂方板川

あううううううううううう

安成 佐了

はりあぬうううううううう

牡丹の花乃富貴なる物なりと云ふ

こころを

貞友

大坂

少きことも草の名なるもあつらんを

麗麗流の物珍なりけるはそよ地

端の物なり

如貞

とちひらりつゝささくやよりの草

花をせし人よ 送水

五百柱老田氏

よりの草や人目なりけるはけりとも

花をわきまき 家之 川民

ちる花に一日とよりのひらり

芍薬乃を感す 二信

とちへんく乃かありて流の二階の家

是れ使温よさくもはやく大坂の川

少のまきの物なりけるは河内玉作田氏

こころ乃は社なり芍薬乃感するとも

はやく舟をりよせりてまうさく見え

えりし時 季吟

芍薬乃は心とりあつては向ふ

仙洞の庭をめぐり元隣

えふ乃知るも絆約なりやこころ山

萱草をいそぐ 幸勝 大坂

花の露やわらわら草花記事一乃一也

雪如 けいぎ

草乃名やいそぐ 諸事なととこれ

美人草を 未正 大坂

あひわれりるる且れをえじ美人草

政友 松

あひ草乃いそぐやとらうとく美人草

もふらひとととらうのまのひとん

三信

これ花乃いそぐとんひとん

誹諧合り 康吉

いそぐのいそぐ後空なれや美人草

美人草をいそぐ 中村氏

花乃いそぐとらうとらひとん

政通 福知山

美人草をいそぐとらひとん

三笑 大坂お友氏

貞女あはひくあはひ美人草

定昌 大坂お友氏

義知 河内少寺

美人草衣裳やそふ乃々くみこ

庭より乃花をく栞よりくま

くりく人 元と 大坂

これ一連の事とせん花と世人々く

重定 平野

花もれや文字はく州乃作し

人よりわくお裁く対下野の

花よりを 正信 三木

幾句はあそと詩もつけ乃花見り那

金銀花を 空島 河内少村平野

これや花乃富貴あるもの金銀花

重政 安藤屋坊

花乃雲乃や金銀珠玉とく

直政

恒極ひくくのをうりや金銀花

生垣乃例もそれの可也 成方福井

少くをり將禁くをり金銀花

躍花といふ物を 高隆 三木

昔乃やをりなまはくあめ乃こ

三羽

きあらしや中乃志んあちをとりつる

清宗 大坂

はく野入や入よきこゝ隠跡乃をとり花

一笑 伊賀上野

きこしきしうつるや小所をとりいそ

多の發白井中に 一歩 大坂

わさかきしはるや麗新乃玉のくさど

交束とつるを 寒松 奥羽三平松

交乃下いすこよひるきこつる乃こゝ

交月易明

文部

きこしきしうつるや尾初るも交乃月

東源和尚

交乃あれ月もかきやうはきさ乃尾

中崎貞利等

交乃こまもこいふき交乃月毛わ排

雪之 伊賀上野

驛よりきこしきしうつるや交乃月

好道 大坂

飛やうしきしうつるやうら船つふ川乃月

棟若

あふもまのけやあふ月乃う

三朝

あふまのけやあふ短敷此月乃ゆ
あふ月やあふ結をかろ車乃瑞

如貞

須弥山乃坂くろ輪うまの乃月

一眠法師 義法改年

あふまのけやあふうまの月乃

文雅法師 伊勢

あふあふあふあふ月乃ひとさう

月をさうく 二信

天人乃あや乃けりて三十一乃月

伏見此月さうあうくうさう

志あうく 安永 梵之齋

日月といふうこれころ此ふうめ那

皆乃生ゆるを 如貞

ひくきやあうちん竹林乃子とまの那

貞宣 戸

竹乃子とさうあうあやおや乃陰

山置あゝ人乃... 雑

竹乃子... 世

元宗 指列上叙

ゆ... 乃

一言

子... 乃

二... 後久 秋回湯

二... 乃

重紀 指列伊丹思湯

... 乃

法元

... 乃

如自 肥前

... 乃

ト翠

... 乃

大谷貞成

竹乃子... 乃

人乃... 業源

ひ... 乃

月あけ歌云

正信

乃波

月のうねり名のれ乃波く

流去

藤本 心月氏

月よりさきやうきくさし

如彦

大坂平田氏

月のまはりこゑよりけり歌云

卯がふさりよ一鳴

長法行々巖

時よりやせち卯乃花のえさ

月次のいづれよ 喜球可粒

卯月くくしきまゝくくし

慈仙

年中もあまうしん子親乃信

宿りいづれよ一室

但馬遠山居士

花よりさきくくし

哉中いづれよ一室

但馬遠山居士

日長おきあけやとやま

ひくく

三羽

あふもをくくし

三羽

しうしあけ

笑成少く

助音

口くしきくはくくやまはれりくきく

木舟は浦宿く 友辰 大坂

名もくひくふねりかけやぢくきく

山崎歌云 志満 岐阜

おくやまうくあくねもくろくく

友下 尾別 名倉

あまのくきく名のれりく山かきく

甲山はもくく 保友

かきくあまのく名のれりくおくやま

俗泰園

ちうとりの矢崎り名のくはく

こいつの合り 杖温 薩州 鹿野

おろ乃けりくこくく出ら部云

こんくせんく 如貞

昔をうく金剛山乃かきく

高野は市みく 雨音

われをりくはれりく

標乃は陰みく 如貞

こゑ乃うやせんくくちけ部云

橘乃菊と云ふも 主形 尾州若菜 後序

しつらえふ乃菊の子祝とあひやうり

百韻乃といひり 仲務

かゝるもといひり みるやみえい

保好 南郡

きここと入るも子祝の秘曲の形

棟善

揚州乃露乃と云ふも かくも

當乃唱りり 定治 幸村氏

あゝもといひり かくも 教をうる

三元 種村氏

うらひと乃よふも 子りあゝ

貞周 大飯

谷乃うらひ葉と云ふも や山部と云

山家部と云 定義 杉川

十法乃あゝや山居りり かくも

我部と云ふも 可粒 善徳

ひと乃同やうらひとあゝ

寢覚部と云 了首

ぬさりりもいひり 世也部と云

幸きをうけりしがあはれなり。いかに

良久 甲氏

再入比丘乃ぬふ幸き也。かゝる

得てあはれ 如貞

ふ断し。ま幸きなり。如常。郭一云

何乃二。院より。何ひきなり。信

新をぬく。信

幸きなり。けり。あはれ。ひきなり。や。ま郭一云

初。初 貞

かゝる。いかに。幸きなり。いかに。いかに。いかに

郭一云 百漢信

かゝる。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに

先隣

かゝる。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに

好道 大反

かゝる。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに

好道 大反

かゝる。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに

好道 大反

かゝる。いかに。いかに。いかに。いかに。いかに

空しく 丹後

あつれをさる八重のやまのむすめ

林鹿 戸

うらやまのむすめをさるくさのむすめ

直ぐ 勢

こゝろのむすめをさるくさのむすめ

可政 義経の鼻

こゝろのむすめをさるくさのむすめ

はせのむすめをさるくさのむすめ

順忠 存

あつれをさるくさのむすめ

女下 子

あつれをさるくさのむすめ

勝政 平

あつれをさるくさのむすめ

あつれをさるくさのむすめ

あつれをさるくさのむすめ

あつれをさるくさのむすめ

清意

あきら

可全

しらつちも若板やふとらあつち

平地をこぼるゝ二信

わんちりや揚ろ一甲乃をせり

唐若

六条くすむい河原乃わんちり

童乃戯りなをいふ時 持列る様

けふふくまふまきりしつる子と

端みり 自叙

かきあけりや一百草やそくわんち

競馬をまよふ 但馬鹿

日るも月毛を命きやいしよあつち

頼富 伊賀氏

月毛やそくわんちり かろるけい

友下 名若

武蔵あつち かろる競馬

季吟

かろる追うけ板や かけあつち

扱あつち かろるいしよあつち

某 かろるいしよ 堀内守義 下平

かちまけし將棊や智恵をくく人ひま

凍雪素又信く 久安

しうくさ乃おもく毛をたわきあひる

標乃むを 平井正重 揚子

あちあし山や晴る乃中乃くぬ

如貞

ひらき乃中乃あちあしあはれ

三信

むや又晴り出るくくえん

一とら 大坂

とくしむむくせんらん乃りさもか那

松極乃むをまきく曇詠うけしに

そ頰し和信くと利 義徳政阜法井氏

きよあをうくじえはうああまうら

人乃追悼 如貞

あまの君く我ら何く愛より花さくあ

喜梅をまきく 友友 揚子 揚子 揚子

あ借りひと乃津をひく梅あし

揚子 揚子 下平

貧借り君乃かちあれくめあし

大

首成 紀別抄

おひぬるやや本此下やうううは

えき乃鳴れを 好道

おどくをひきまをきくわを井ふま

二信

杖はさる野決りくくく多鶴舟!

友乃教自林中 謙也 薩

くくくくくくくくくくくくくくくく

はくくくくくくくくくくくくくくく

平流利きくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくく 廣崎

くくくくくくくくくくくく 林可

あしりすも物くめくはきくく乃く

精飼をくくく 助音 大坂

のくと免をくくくくくくくくくく 餓飢

貞利 徳生節

精けくひのあいうも月乃をれまう那

河道遠よみくく 安成 徳

能をくく物乃目くくくく波乃くく

了首 大坂

波はたろあいらうまうやろ乃あや

一世 揚戸明

因果もやろり館はるらり乃はま

川鶴もみ侍く意朝

まろしかしーいーやろやまの館の奥

交交乃中に如自

忍くのこやろまろまろんまぬの裏

ト廻

琥珀あろろちろ乃身をすよ重きお

ら〜寝たも入もまらろものろあな

久吉 津金屋

あろろあろよひとろわろま教教うま

道政 津越

ろろ教津くゆろ急貴人顔とあ形

正 河内

ろろひろぬぬ故所とろまろハハ

三政 大坂

度耳りハ蠅も物故乃あ〜とあ形

三吉 揚戸明

故を〜あ〜あ〜あ〜船乃様ねる

棟吉

紫の香りの草とよ。此蚊乃ちいふ
蚊のしせ。そのりも血とひらけは

奥村退歩 丹波

絲の意やいふきハ蚊乃よと急ぐ那

一信 大坂松島氏

こはさんそいふくハ蚊乃けり

正種 ぬき

あろよとて蚊をきくくはむじひあ

合巾 江戸

蝶とていふ蚊とていふ虫や又はけり

可政 養徳

はきとらそをのうきよおふりちんぬか

久任 天海

もらつてハ蚊をいふくハ蚊乃

貞成 大毒氏

蚊をいふくハ蚊をいふくハ蚊乃

重方 定庵氏

向て蚊乃いふくハ蚊乃いふくハ蚊乃

如自

風一すれ好くハ故よりきすハ故

如貞

少きよ〜く〜ハ故三伏乃夏のを
夏乃む〜とん〜火よりハ故

閑居 下中

插乃あ〜やあ〜も故や〜ハ故

主朝

少〜あ〜あ〜ハ故〜ハ故

羊子 小女

故をと〜と臈〜も乃衣裳ハ故

故を〜ハ故〜貞成

く〜れ〜い〜と故や〜ハ故

夏乃〜ハ故〜ハ故

破故局〜ハ故〜ハ故

決良

あ〜〜ハ故〜ハ故

信杖新 二

何〜〜ハ故〜ハ故

勝政 撫子

管〜ハ故〜ハ故

求笑

勢利書院 後中

六

雲火乃くくき乃收扇くちをひく

夕雲とくをを 友仙

きりや

とふあくる火をともせむやかおのうと

了肯

大坂

くおく日やくくくくくくくくく

秀行

波阜 大坂

雲のりりひくくくくくくくく

以下法

揚屋

くくくくくくくくくくくくく

元隣

ひやうせくくくくくくくくく

醫術もくくくくくくくく

くんあいつり醫學くくくくくく

水香堂とくくくくくくく

何州

あくる火やくくくくくくくく

正信

下寺

若乃くくくくくくくくくく

近菴定良

雲とくくくくくくくくくく

光義 何内

海士乃くくひりくうくくとふあさる

可成

波乃あやとあさるのうけをひさやひ

字流はすうりき 可全

居とさるや字流乃川尻とあさる

安信

尾筋 本村氏

雲火もあさるあさる水やこうねつる

山崎あさる

政次

持列 唐崎 藤原氏

山崎を極くやあさる乃ひの津くひ

池と雲

見笑

うつら樋乃あさるわいしと池田す

棟善

舟繋くく火をいあさる乃あさるあさ

山あひさるあさる 政通

丹波 藤原氏

わさる火をいさるあさる乃香燭ゆ

坂本さるは 友仙

あさるあさるあさる くれとすくあさる

神社のあさる 正至

菅田氏

さるあさるをいさるあさるあさるあさる

夏乃暮方井中より流去 葵

とひしやあつさるるひどと数乃まのあ

もか 葵

社よりえりにとちや雲乃ひとうとく

葵

ひのハねくよるハあきさ火乃あつさる

葵 大後

よるつとあつさるるひとけさやと雲

可全

やねをとつさるるひとけさやと雲

秀長 哲列の長氏

あつさるる火乃やとけさるるあつさるる

了首

あつさるる火乃やとけさるるあつさるる

宗光 村畠

あつさるる火乃やとけさるるあつさるる

義吉

あつさるる火乃やとけさるるあつさるる

信吉 義吉の長上

あつさるる火乃やとけさるるあつさるる

吉野

貞氏

木列

花乃枝も火成るをうらむ

雲より降りて松川之源

火をふをるも手さしうらむ

月乃霧り火を志知くほ

正歩

折列

月乃雲より下れ

清宗

大後

天理の中月乃

中義

吉野

月乃かさひ物

正後

姫乃

流雲をうらむ

為勝

乃月

わさる火やあうらむ

且夕

紀列

雲火乃一灯

貞宣

月乃

一之

肥後

月乃花れあはるるのうげやいふは星

拾列明星の景屋とつふありし

雪梅 拾列二子中書

明早の霞をよそあぢ野にりともふか

重政 天海拾列氏

霞ちあがりいひくしとらるるあは

秀宣 丹波宮内三上

明くくくくく目ら我れくくは鹿りり

如自

ひるくくくくく管火を清言の類ひ

野松よ出侍く 法元

鳥の羽をよるくくきぬるわりの雪を

棟善

夜くさくさくはくはくくくくく

百合を挿侍く 徳懐 大坂

すのこをよるく清言乃かあるる車ゆり

貞成

くくく梅り花のともきりや清言乃

新瀧 拾列三田

園乃花より香くみく指南乃車梅り

久しにきき人今尚後

けい金塚

あまのこひひきくうや園上車ゆり

庭乃ゆりに

正後

天保中流氏

まじくや焼乃糸毛のくもを極りし

則常

うまかもの上臈くま車極り

童のむを授たれ、宗明

杉外夏田

ころうーはをひきとりう車ゆり

風ゆきたれし

三朝

あくまの花橋ちるひやくるまゆり

笑た勝威

三木

のせくうまや風乃車ゆり乃む

鬼百合の度更たれ、政直

廣崎

むやのるをよとひもゆりうまゆり

三朝

をよれもゆりうまゆり乃む

姫百合を

三信

なく露乃玉よりひめゆり乃む

貞威

ひめゆりをうまゆり乃む

僧一頁 野分巻はら

ひめゆりをや〜とよせや言れうら

重明

けまこめよ八重垣はくれ小ひめゆり

人うむをことと忠勝 伊女

こふよめり〜とるえんもく子小娘ゆり

百合をいあゆ〜了首

ひめゆり〜とらす〜とる花瓶うら

夕翁

娘ゆりや〜まうのある座り〜はね

とら〜ゆりを

如空

持列二首

美はくせりの善や〜とら〜とる〜百合

華を〜子物を

朝信

大夜より後

うけおきも〜れぬや矢乃使ひ

大源 何也

ひと〜ある花らや片〜うつふ事

生を〜とく

重信

丹波福野

矢若葉の事〜とく筒や〜花うら

紅を〜たるを

合中 何也

常陸〜や〜は〜る末は〜む〜る富

東ノ御堂は遷坐此終ノ定乃氣多物
乃氣武といとあつてまにわをたあひ田
極むといは是終く季吟

よりのよりや能も田うへも何も空也

ちと

云田を候とて人々付くか那

尚後 榮

う格るうり昇り志きうりある早苗小

住者清田極を了着

神やきぬりあつちせわして清田うへ

のり

五月の比住者ゆく保交

かふうりまきせんらん一ゆや清田うへ

此八月雨降るれと一雷

わり竹もさむじまといとあつち清田

人のもさむく 三信

まろと麦たしと玉階乃若志くめを

野り鳴くれし 清親 尾列山崎氏

あつちのまやせり麦秋をとり経

建仁のころと 道朝

まあへせりや一切きやうなうり花

常之 平野山遊氏

わんわんや 講師 發声 蜂れう

慈仙

ふんふんや 蜂や ぬき子乃舞

青光 伊勢山田

やまひこしあふむのしりせうあう

河内よまうりて 清元 権三郎

めいあふせうりうのせうやうのせう

惣門乃はなきあまぐ 謙也 薩

あうくお開乃ううのせうりうの急

五三

せいりうのせう せう好

まねあふあふあやうのせうりうの急

主明

あふあふのせうのせうりうの急

香吟

暴をわうのせうのせいのせうりうの急

成利 大坂山田氏

子音やあふりうのせうりうの急

休甫 大坂

ひろあふのせうのせうりうの急

林可

伊勢はくく志々々乃世々々やぬあまのり

そりりまゝて侍り義重 龍列の香山を説く

世々乃ねや想う乃名物すうりやま

輝乃まきさなれそ可政 義隆大要

うつなまうりうくやうけ輝乃想う

如貞

六月乃雪うせきくよせきれん

安正

秋田野代文談

世々乃ねえりん林種乃ひきさう那

政通

丹波福富

おしり雪うりやうり乃世々乃志

あまうりなまうり末元 大坂名谷

ひまうりかたうりうりやうりまうり

貞宣

雪うきまうり飛障乃やまももあまうり

あまうりやうり厚成

ふまうり雪も交はうりうり思ふ乃那

あまの雪をいふ重方 左月成

久まやあまうりあまうりあまの雪

きくくく守り 季重

中乃くぬきしこくきあうしり山

妙室とらふを 好道 大後

むら雷もかやううあれ家妙室やま

久久 田中氏

いじろといじもいりあけいなり

康吉 下村氏

妙室もすじや交あきくうくあり

可理 加藤

天乃時と地乃利く志り無妙室りな

交り教る此中に 元寄 橋本上教

まらふもやけしめひく神系

忠良 月浦氏

大教くゆい交よある神乃出出る

祇園言乃く方 可全

下京乃くありや祇園とひをせす

六月六日平流利冬あきすきく

酒瓶より菊乃花を入らる意氣の

面白りたれし 意朝

菊水やあこあくくく瓶の中

如貞

菊科やかろうちきよらつたるま

函谷科ひき出さく口糸乃た初ち通す

うくとあうたれハ立心 尾刈熟田

草いどく一何やひきさぶとめんこち

中略正後 天海

ひくちうすくやあひさうしんさうち

あうたれえ 成吉 夫田氏

並かこりきをんえさうちやうふらあは

思ひのさうをさう おし好 葉

おとろろ花の部や放下おこ

気障

舟あこも声をあうあうるこや

傍奉者

おたこしやまれあうら磯良ら

祇園さう 築港定秀 尾加名吉屋

おとろろくねまき一物よおふらうり

栲列平野乃祇園さく六月七日

連舟乃備さう さうく

祇園さう一平野さうら山さう

まぬかたをすねむい出〜りま〜
ハ〜哉ま〜思うは〜ぬま〜し白
交を〜せ〜あ〜の〜あ〜

元隣

あ〜の〜せ〜あ〜の〜あ〜

家信

尾州 菅原

すまひろを子孫とらん志よるあまの那

清宗

大坂

張〜の〜風〜の〜の〜成志あまの

三信

ひあ〜の〜の〜の〜の〜の〜の〜

三朝

寝あ〜の〜の〜の〜の〜の〜

舟よあ〜の〜

重成

丹波 出雲 郡 玉造

人まら〜の〜の〜の〜の〜の〜

林鹿

戸

あ〜の〜の〜の〜の〜の〜

夏衣と〜の〜の〜 如貞

〜の〜の〜の〜の〜の〜

文部

火らこら乃梅ころや 雪乃芭蕉布

一とら 大後田氏

あせしあふかこひのてりやうな

せとら 中村氏

かこひやあせをちあひ乃ゆこさ

大あむ武 留之者

汗ばあさころころいんども乃匂ひる

了空 三の藤原

ひるハ満珠よるハ千珠乃玉乃あせ

小玉貞利

うたふまよわと日よあひるあつた

嘉郷 成ら藤井

炎天をひなかさぬころあつたかゆ

重明 藤原重明

あつたころあつた火氣乃中此火氣なる

光明をゆく舟乃まよふのちい

いまゝくくくくくくく

あつた日和十方世界光明も

夏乃地滑り 林可

志のそねらんきそし又このみ六月

夏山とつらさを 品芝 大坂

衣あはれしあせやうくやま夏乃衣

山崎や 文部

志のそねや夏山乃きりあつてり

夏乃とつらさを 政成 中野

夏乃乃や月とる猿乃乃ひきん

夏風とつらさを 有宣 天海

あつて月乃乃とる猿乃乃ひきん

二信

夏乃乃せ乃口を河乃乃温氣乃

難波や 健勝子 助音 八段

涼乃せ乃乃つれを河乃乃入江乃

納涼とつらさを 卜契 山崎

身乃あせを乃つれを乃乃乃風乃乃

風乃疎戯乃乃 見牛 三河 風乃乃

あつて乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

風乃使吹乃乃 利昌 本野

乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

夕納涼

貞成

おもしろく風車と舟のやうなうた

元隣

山並みをよみよむや知仁極ふすこ

白き風車にまきくはひつひつ

勝吉 陸奥

涼まの雪をゆくと風車

多分なまの松のゆふりく風鈴

あまの津久保 三朝

漲あまのすしとやれい終乃こ

物えたる水まき 陸奥 岸

舞臺まきすしあひまのうた

川道遠よみまき可長 尾形信海 尾形

かまゆへはくをたふあまのうた

あまの舞のまき久 田中

あまのまきすし風まのうた

信濃のゆあまのうた 尾形信海

川まのまき 牧野 尾形

黒まのまきまき 村露 川

あまの納涼 燕仙

あまのまきまきまきまき

月夜納涼

重明 葵

すしとくは下一樹の夏月くま

安藝安藝中く 温故 廣嶋

月涼く夏く熱風乃名譽の那

神泉流く 珍木成長

世熱池をくくやすくく乃月

月をくく 喜山方重 尾加重

月之周扇河くくくくくく風く那

了首 大夜

半月のけやあき乃地くく

表心 葵

園涼く月や班女くくくく

利昌 木罌

明星や月をあき乃報くく

清宗 大夜

星や月乃あき乃きんく

平乃帯くくく月乃あき

則重 奥女

くくく月乃あき乃

了首

あはれなる月なりけりや影のまじ

正次

何列書白紙

雲よ月なり扇乃もをわたりし雲

上興

月なりけりや影のまじ詩をうへむく

忠孝

三の松尾屋新次

日なれやるる月なりけりや影のまじ

三信

天人のむねをいせのちのりあり

夕立を

十

五

天人のむねをいせのちのりあり

夕立を

常之

平野中書

夕立のちのりありけりや影のまじ

三矢正雄 番

あはれなる月なりけりや影のまじ

可合

あはれなる月なりけりや影のまじ

夕立のちのりありけりや影のまじ

よき人あり

あはれなる月なりけりや影のまじ

二信

平らるるや〜
三河海峯とらふもや〜

了宣

三河海峯

ゆららるるや〜
接高と〜

接高と〜

雪之

但列生野 土肥

ゆららるるや〜
二葉ある人乃〜

二葉ある人乃〜

吉仲

城家柄 露

名よ〜
小瓶流〜

本音流〜

三信

大坂御

中〜
禁裏の〜

禁裏の〜

副田

中〜
船の〜

船の〜

信

あ〜
三信

三信

あ〜
勝重

勝重

尾行

尾行 倉屋 若思

夕〜
夕〜

貞成 不養

はとあさひのよもぎらるる三のきこる

重方 重成

松をせりありや夕ぐさらるるつみやま

程多く晴よくれハ常貞 平野

夕ぐさや男鹿乃角のけりから

重吉 木村吉五

梅ふららけけみまうやすんをくれ

三伝

ゆりく徳とつひもかきうねよをくれまう

はま若屋里ま 紹世

夕ぐさらるるをれややぬりやとめ

元隣

せらりゝまもゆよのけりや晴乃舞

正重 梅戸三子 栗井次

夕ぐさらるるけいもさうきくけいひる

十畧の愛句を傳へば極是乃心を

正秀宣 母屋三郎

そふのちらわうこの身をもあんとお那

得宗よせしる 嘉宣 梅戸三子 神保次

このりやま〜一校乃むをけけら

けけをう〜 康若

枯竹もよ〜入る〜。けけもかゆ

交乃後乃の中ハ 重直 紀伊南部陸奥

う〜け子をかゆ〜の陰の交らや〜

人乃〜とせ〜 中好 禁

け〜わ〜り子をか〜と〜や 茹子汁

姫瓜を〜〜 勝政 留

ひめ〜りの胃じ〜と〜ひや 煙乃〜

春菫

名より〜〜ち〜る〜いり我〜こひめり

瓜生山〜〜おひ〜ひと 志業を人

乃 江戸を〜れ〜 一村勝 傳

う〜せり〜の多ぬを〜い乃瓜生やま

瓜を〜〜 宗信 大坂

ぬや〜ま〜れ〜る〜あ〜つ〜これ〜こ〜ぬ瓜

あ〜ん〜と〜云瓜を 三信

瓜生〜和〜け〜〜と〜〜さ〜あ〜ん〜ん

三朝

あ〜ん〜ん乃甘露〜と〜〜や瓜乃あち

ノ志 如戸

あしこしりあしや夕くをれえの肩

児醫師乃もれし受一 桑

ふりこりしををけり乃せりうら

風車乃咲文たハ 宋朋 栲列富田

橙子をすすや花乃かさるるま

あしりたれし ていさく

せりんりふりこをうり交乃あめ

神泉薨あし 退歩 丹波 奥野

ちるふとの海きりこよ勅をこま

あまといしを 有信

うしひきやうとを乃花えの部

為勝 河内橋池氏

あまこころやうしり乃あ

長久 大坂甲氏

けきこしれをせんあ乃竹

正清 大坂中島氏

あせんもや子里乃漢もあ乃竹

可全

あ竹乃あしをく露やうしり玉

のうせん葛を 好道 大坂

乃うせんのもふ木乃若やかつゝひも

烏丸亞相公乃御座の友若よ後句は

れと作事やぐ 貞徳

在者ある秋よりけきく河秋乃とも

石葛を極むせく 平井正重 兼

せきさちやう乃露もや志ん志の目乃茶

たきくろを 源重 大坂

おもしろ乃魚をよむとくや露の玉

則重 奥田氏

たきくろ乃ちきりやかきかきく乃

係友

白蓮乃すくりりすくや沢きこさや

池乃たもすを 杉重 杉易殿

池乃きりしきとやこあひ乃白蓮花

三三朝

波をくくぬうれけ乃軍う白蓮花

宗新 平野

張をくくやきく波り蓮花

吉久 竹ノ鼻

うねる波は乃をさや少るひ

重好

薩州鹿野園

君子やいふ山をいふのあはぬ蓮花

可全

露をよみとちすを威ある君子

謙也

藤戸

蓮池のほとりを白ひくく

正賢

岐阜如野氏

岩のぬる志もくく

休言

俣野松尾氏

ちりこくれとくく

豊言

豊前中津橋氏

地を極くくをぬく

三信

れやのみやせき

嘉通

梵益

山崎

かせくもくわ

山置

を當ち

正次

山崎

る精乃玉の火をとる

傍秀威 内書

とくしをともや 奥あうの交乃出

安法 持列信上 中宿女

火とりまきく火とりくや 交乃出

貞利 持列書 中宿女

とくしをともや 奥あうの交乃出

毎信 松坂 中宿女

忠人交乃出ありとせぬ出物うも

季交よ書をこし 紹性

出用くしとじりありとせぬ出物うも

六月末はくかきとせぬ出物うも

ふ登

かきとせぬ出物うも 出用あり

この月乃比福崎とりの雨や 権輔あり

よせき 涼くわたり 郭とせぬ出物うも

くれん

信方

大坂

すしめとくしこれとや 時乃とりけり

紅は錦く体亦赤くいと涼け

ある雨をこきく 浄意

被るの葉屋や ありとせぬ出物うも

六月廿日

可全

林鐘を多しやいふに及乃九

任者乃後よ 正哲

たをくし及と結と此のくい

